

2009年 年頭のご挨拶

SRC 理事長 出津 平

出津税務会計事務所 所長
認定事業再生士（CTP）

SRCの会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、上期には資源の高騰、下期には米国を起源とする金融危機が突如として起こり、これが実体経済にも波及し国際的な規模で経済が減速し、企業の経営環境が一変しました。

この傾向が今年も続き、その解決は未だに見いだせない状況にあります。日本を含めた各国は、資金の流動性を高め、政府主導の公共投資による景気刺激策を打ち出しましたが、この旧態依然とした政策が根本的な解決を導き出すか、疑問のあるところです。

一般的には、米国の経済運営を問題視する意見が聞かれますが、それも間違いではありませんが、その一方では、如何に世界経済が米国に依存していたかを改めて知らされた思いを強く感じます。日本企業の製品は直接、間接を含めて米国市場に頼り、米国は膨大に対外債務を増やし続けて市場を提供して参りました。しかし、これが永遠に続くとの錯覚から目が覚めた思いです。昨年、ある米国人が「日本の経済と中国の成長は米国人の浪费癖とマネーゲームが支えているが長くは続かず、必ず何時かは終わる」と述べていた言葉が、いま改めて思い出されます。その意味では輸出に依存



SRC 副理事長 野田 勇司

野田公認会計事務所 所長
認定事業再生士（CTP）

新年明けましておめでとうございます。

昨年は秋口からアメリカの金融危機に端を発して、即座に全世界の金融危機となって拡大し、これが更に全世界の自動車産業を始めとする産業・企業に危機対応を迫ることになりました。私たちの東海地区は、トヨタ自動車を中心とする自動車関連産業が非常に大きな経済的、社会的力を持っていて、自動車生産台数の急激な減少は自動車関連企業のみならず、地域の自治体にまで大変な財政縮小を余儀なくしております。

経済回復時期の予想を地域の金融機関や企業の人にお尋ねすると、2年あるいは3年という人もいれば、少



した製造業は特に厳しく、この不況の原因は構造的にも深く簡単には解決しないことが見込まれます。

何れにしても、多くの企業が困難な状況に陥り、「売れない」、「受注がない」、「利益がとれない」の声が圧倒的に多く、この厳しい経営環境の中で、再生を求める企業は確実に増え、SRCは大きな役割を果たさなければならないと思います。

私達は設立後5年間で事業再生を学び、経験もして参りましたが、今思うとこの本番に備えたウォーミングアップの期間であるとさえ思えるほどです。

SRCが中心となり導入したJCTP（認定事業再生士）も昨年の合格者を含めて、100名近くとなり、日本全国での活躍が各方面からの期待も多大であり、大きな社会貢献を会員の皆様と共に果たしたいと存じます。

今日の営業が悪化した会社の再生は、経営、金融、法務、財務の専門性を必要とし、更に再生の方策としては、営業再生の重要度が高く、経営の人材、スポンサー企業の参加がより重要度を増します。その意味では、私共SRCの会員の皆様は多くの企業との関係が深く、この大きなネットワークを活用するために、今年は会員間の情報の交流を促進し、強固な組織として成長したいと念じています。どうぞ皆様のご意見、ご提案がありましたら積極的にお寄せ頂きたくお願い申し上げます。

本年も会員の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

なくとも10年、予想不能など、見方は様々です。自動車関連のある企業が、トヨタから「2、3年は辛抱してくれ」と言われたなどと、真偽のほどは分かりませんが、まことしやかな話題もあり、景気回復時期については皆が興味津々です。

債務に依存したアメリカの消費者の需要に全世界の実需産業が頼り、その消費者に対する債権が金融商品となって全世界の金融機関に販売されたので、末端債務者の経済破綻や、金融機関の経営破綻が生じると、金融経済危機も実需経済危機も連鎖して、ともに全世界に飛び火してしまいました。

事業再生士的に言うと、この処方は「過大債務の整理（資産売却、資本注入）」と併せて、「採算事業と不採算事業の切り分け（リーマン、GMなど）」による再生となります。これだけでは全世界の経済が回復するには程遠く、アメリカの経済環境が多少ながら安定を取り戻す緒につく程度の話だと思います。これだけだと

世界経済の回復は「いつになるのか分からぬ」というのが正解です。

全世界の需要を今回の経済危機前のボリュームに戻すことをしなければ、世界経済が回復したことにはならず、今、世界の企業売上を元に戻す必要があります。しかし、危機によって減少したアメリカの需要に見合う需要の創出は可能でしょうか。

聞くところによれば、お隣の中国では、今年は建国60周年、中国共産党創立88周年に当るそうです(?)。北京オリンピックは、2008年8月8日開会式でした。今年中国は縁起がよく記念すべき年だそうです(?)。

SRC 理事 中村 政温

**中村公認会計士事務所所長
認定事業再生士（CTP）**



早いもので、この春で大学を卒業して25年になります。3月の25周年記念の大同窓会に先立って、個別の同窓会が何度か開かれました。25年の間に結婚や転勤が入り、当時の住所録がほとんど使えず、友人間のネットワークが頼りで、いまだに連絡の取れないものもかなりいるようでした。旧友のうち、当時と見かけ上余り変わらない者が3分の1、当人らしいとどうにか判別できるのが3分の1、残りは声をかけられるまで判りませんでした。髪の毛の少なくなったり、真っ白になつたり、また、メタボになつたりと容姿は様々に変貌を遂げ、時の流れを十分に感じさせるものでした。仕事も、転々とするもの、同じ職のままのもの様々でしたが、文学部のせいか公立高校の先生達の堅実さが印象に残りました。

我々の年代は、卒業の翌年（85年）にいきなりプラザ合意による円高に見舞われ驚き、その後20代をバブルに踊り、30代をバブルの後遺症におびえ、40代はじつと息をひそめる（リストラ）世代です。激動の25年だったのでしょうかし、これからも、まだまだ続くものと思われます。

2009年は、世界大恐慌のリスクの高まる年です。多

SRC 理事 酒井 啓司

**酒井啓司税理士事務所所長
認定事業再生士（CTP）**



一昨年の米国サブプライムローン問題から発生した金融危機、経済不況ですが、金融市場における「信用」が失われたという点で、根の深い問題だという主張があります。その主張が正しいのか、答えを出すには少し時間がかかるとしても、今後の事業経営に大きな影響が及ぶことは間違ひありません。同時に、私たちの再生への取り組み姿勢も変化を求められます。例えば、金

中国が、社会インフラの大規模整備計画を実践し、国民の所得倍増計画を打出し、中国軍と行政組織の近代化に戦略的に投資する、これによって内政の充実と中国国民の支持を勝ち取り、更には世界に向けてアメリカに代わる政治的ポジションを得る。アメリカの混乱に乗じて“中華”を実現する。こんなことを中国政府が計画中であり、日本もこれに積極的に協力する対話が進んでいる。うまくいけば2、3年で日本経済は大活況！、世界も活況！。

新年に当り、私はこんな初夢を見ましたが、皆さんの初夢は？ “牛年好運来”

くの企業が窮状に陥り、SRCのメンバーに助けを求めてくることが考えられます。我々1人1人の力は微力でも、チームで集まれば、大きな力になるはずです。

2004年TMAの年次総会の基調講演で前ニューヨーク市長のジュリアーニ氏は、再生に当たっての6つのポイントを示唆されておりましたので、初心に返り、年初の言葉に代えさせていただきます。

- ①ビジョン (Vision) ……ビジョンそして具体化したゴールをまず持って、再生に望むべきであること。
- ②楽観主義 (Optimism) ……後ろ向き（悲観的）にならず、前向きの姿勢で再生に取り組むこと。
- ③勇気 (Courage) ……恐怖に怖気づかず、リスクを背負う勇気もって再生に望むこと。
- ④チームワーク (Teamwork) ……1人ですべてを成しえることはできない。協力してくれるスタッフとのチームワークが再生には不可欠。
- ⑤準備 (Preparation) ……不足の事態に対して、万全の準備が再生には不可欠（備え有れば憂いなし：検事時代の話を例示）。
- ⑥コミュニケーション (Communication) ……再生チーム内においても、また、再生企業を取り巻くステークホルダーとの関係においても何より大切である。

2009年がSRCそして各メンバーにとって活動の場が広がり一層活躍されること、そして、無事息災であること祈念いたします。

融機関の融資姿勢の厳格化、会計上の時価主義の修正による制度改正、企業の事業計画の見直し等々。

しかし、どのような事態になったとしても、私たち専門家はこの機会を、時代の変化を感じ取る貴重な時期だと認識し、再生企業に対して、この変化に対応して新しい情報を提供しなければなりません。それは決して簡単なことではないと思いますが、SRCのネットワークの中で情報を共有し、議論を重ねることでより良い道が選択できるようになることが望されます。

このような時代であるからこそ、あえて皆さんにとって素晴らしい年になることを祈願申し上げます。